特集 市民特派員レポート　先進的なコミュニティ・スクールの取り組み

ひろげよう　地域の担い手　はぐくむ輪

下校時見守り活動（浅江中学校）

▲蒲谷 利矢子さん（室積）、河村 淳子 さん（光井）、田中 佳代 さん（浅江）

今 なぜコミュニティ・スクールが求められているのか

皆さんは「コミュニティ・スクール」という言葉を聞いたことはありますか。一言でいえば、学校を核にして地域の人々が集い、学校も家庭も地域もみんなが元気になることを目指す取り組みです。

子どもの数が全国的に減少する中、本市においても現在の児童生徒数はピーク時の半数以下になっており、少子化への対応は急務となっています。また、核家族化や共働き世帯の増加など、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化しています。

その一方で、人々が生涯にわたり、いつでも、どこでも、自由に学ぶことができる生涯学習の気運は高まっており、地域社会における自主的・自発的な学習機会の充実とともにその拠点づくりが重要な課題となっています。

今回は私たち市民特派員が、各地区の特色を生かしたコミュニティ・スクールの取り組みを取材し、光市の教育やまちづくりについて考えてみたいと思います。

コミュニティ・スクールの取り組みの一部をご紹介

▲教育フォーラム（周防小学校）
コミュニティ・スクールの取り組みの発表とともに、地域の人と一緒に合唱を披露しました。

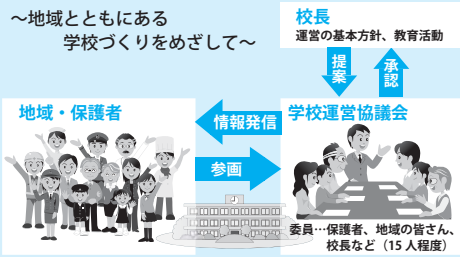
▲夏休み料理クラブ（束荷小学校）
郷土料理「なすそうめん」と、地域の人が製作した押し寿司の型を使って料理を楽しみました。

▲花の日参観日（島田中学校）
持ち寄った花を地域の人が生け、教室に飾るとともに授業の様子を見守ってくれます。

コミュニティ・スクールとは

「学校運営協議会」を設置した小・中学校のことをいい、本市の市立小・中学校での設置率は 100%を誇ります（全国は 9%）。

学校運営協議会では、教育委員会から任命された保護者・地域の人が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりします。学校のこれからを、学校・家庭・地域が一緒になって考え、子どもたちの豊かな成長を支えていく仕組みです。



コミュニティ・スクールの取り組み

子どもたちのある１日の流れに沿って、市内の小・中学校で取り組んでいるコミュニティ・スクールの活動をご紹介します。

登校 7：45

1 みついの日（光井小学校・光井中学校）

小・中学生、地域、保護者の協働で行っているあいさつ運動。雨の日も風の日も、あいさつを交わす姿が清々しく、活気にあふれています。

授業 10：00

2 授業の見守り（光井小学校）

先生の言ったことがうまく伝わっていない子どもなどに対し、やさしく声をかけるなど、地域の人が児童の授業の様子を見守っています。

給食 12：00

3 給食を一緒に（岩田小学校）

食を通じて世代間交流を図り、一緒に食べる楽しさを経験します。「おいしいね」「しっかり噛んで食べようね」と会話も弾みます。

校外学習 14：00

4 まちたんけん（室積小学校）

校外学習の一環として、自分の足で校区内を歩き、改めて室積のよさを見つけます。危険のないよう一人ひとりを学校ボランティアが見守ります。

下校 15：30

5 下校時の見守り（三輪小学校）

子どもたちが安全に下校できるように、見守り隊の人や先生が通学路に立ち、「おかえり」「今日の学校は楽しかった？」とやさしく声をかけてくれます。

夏休み

6 サマースクール（浅江小学校・浅江中学校）

小学生の学力向上のため、中学生や高校生、地域の人などが算数プリントの丸付けボランティアを行い、分からない問題を丁寧に教えます。

学校

市では、故郷を大切にする気持ちと生きる力を育む学校教育を推進しています。

本市の市立小・中学校で取り組むコミュニティ・スクールの活動について、市教育委員会の山口CSコンダクターの木本さんにお話をお聞きしました。

■複雑化、多様化する教育課題に対応するために

少子高齢化やグローバル化など、子どもたちを取り巻く環境は先を見通すことが困難な時代を迎えつつあります。また、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、学校に求められる社会的責務はますます大きくなってきました。

こうした中、子どもたちがこれからの厳しい時代を生き抜くためには、他者と協働し、未来を創り出し、課題を解決する力を備える必要があります。そのためには、教職員だけではなく、地域や保護者など、さまざまな人々との関わりの中で、子どもたちの「生きる力」を育んでいく仕組み（コミュニティ・スクール）づくりが求められています。

学校教育課　木本（このもと） 育夫（いくお） さん

■地域の特色に合わせて

コミュニティ・スクールの取り組みには、地域との連携・協働が不可欠です。

このため、各学校は地域の人、保護者、教職員によって構成される「学校運営協議会」（2頁参照）を設け、地域の特色に合わせた具体的な取り組みを行っています。

例えば、小・中学校が近接する光井地域では、「みついの日」（上記1参照）、豊かな歴史・文化の残る室積では「まちたんけん」（上記4参照）など、地域の特色をふまえた取り組みが進められています。こうした取り組みにより、①学校運営の質の向上、②地域の子どもは地域みんなで育てるという意識の高まり、③子どもたちの故郷を大切にする気持ちが育成されています。

■子どもたちの笑顔を地域全体に

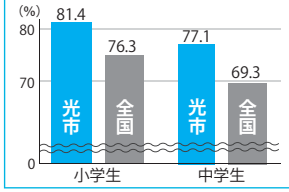
学校と地域が手を組んで、「地域とともにある学校」をつくるためには、一人でも多くの皆さんや保護者に学校づくりに参加していただく必要があります。その橋渡し役として、統括コーディネーター（次頁参照）の役割がますます重要になってきます。

コミュニティ・スクールの取り組みによって子どもたちは、大人である地域の皆さんと交流し、地域の一員として活躍しているという自覚が高まり、ふるさと光市への愛着がわくきっかけとなります。

同時に子どもたちの笑顔が地域に広がることで、地域全体も元気になるという「WIN-WIN」の好循環が形成されています。

データで見るコミュニティ・スクールの成果

Q 自分にはよいところがあると思いますか（「はい」と答えた割合）



本市では全国に比べて、はいと答えた割合が小学生で5.1%、中学生で7.8%高く、子どもたちの自己肯定感の高まりにつながっています。

出典：平成28年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

地域

学校にとって故郷に誇りを持つ子どもを育むためには、地域の人が欠かせない存在になっています。

学校と地域をつなぎ、調整役として各中学校区で活躍しているのが「統括コーディネーター」です。

各地区の様子などについて、統括コーディネーターの皆さんにお話をお聞きしました。

わたしたちと一緒に学校と地域を盛り上げてみませんか

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てる環境を整備するため、各小・中学校で子どもたちを見守る学校ボランティアを募集しています。子どもたちの授業の見守りや、地域に伝わる昔話などを教えてみませんか。

詳しくは、各学校にお問い合わせください。

お待ちしています！

浅江中学校区 金子（かねこ） 功一（こういち） さん

■あさなえネットで子どもたちの笑顔を一緒に増やしませんか

浅江地区は学校の空き教室を使った地域の活動ルームがあるなど、子どもを中心にした学校・保護者・地域の協働連携が定着しつつあります。中学校で開催している大人を対象とした英会話教室では、実際の英語の授業に参加するなど、学校がすべての人にとっての学びの場となっています。

子どもたちには、多くの人と交流をもち、ふるさとの誇りを胸に、豊かな心を育んでいってほしいと願っています。

▲生徒と同じ教科書を使って英語の勉強中（浅江中学校）

▲地域の人が木工教室の先生（浅江小学校）

島田中学校区 河村（かわむら） 昌夫（まさお） さん

■お互いが切磋琢磨していい関係を築いています

島田中学校には、4つの小学校から子どもたちが集まります。中学生が地域の行事に参加する時は、出身校区以外の行事にも積極的に参加してもらえるよう工夫しています。「他の地区はこんなことやってたよ」といった情報共有が図られ、地域全体の切磋琢磨に繋がっています。

昨年発足した「学校支援ボランティアバンク」の参加者とともに、島田のよさを生かした取り組みを進め、学校を盛り上げていきたいです。

▲地域の人と取り組む花いっぱい運動（三井小学校）

▲すもう大会（上島田小学校）

大和中学校区 田中（たなか） 道治（みちはる） さん

■子どもと地域がふれあう機会を増やしていきたい

「大和」の名と、郷土への愛着を育んでもらうため、親子と地域が一緒になって、大和中学校の体育祭で、やまと音頭を披露しました。やまと音頭を通して、子どもと地域の人の絆が一段と深まったように思います。

私にとって地域の子どもたちはとても大切な存在です。今後はコミュニティセンターなどと協力して、大和地区の連携を深めて、子どもたちを地域全体で育てていきたいですね。

▲やまと音頭を真剣に練習する子どもたち（岩田小学校）

▲大和中学校体育祭の様子

▲100匹を超えるチヌなどが獲れ、保護者も大喜び

■室積でしかできないことをたくさん経験してほしい

室積の海や魚に親しんでほしいと、小・中学校の保護者などが中心となって、親子と地域が一緒に参加できる地引き網体験を開催しました。室積伝統の秋まつりにちなんだ「エンヤエンヤ」の掛け声に合わせ、みんなが網を引き続け、体験を通して一体感も生まれました。

保護者にも参加してほしいので、地引き網以外にも、親子で参加できる行事を休日に開催しています。ぜひ積極的に参加してほしいと思っています。

室積中学校区 岩本（いわもと） 政幸（まさゆき） さん

▲光井小・中学校合同の「熟議」の様子。統括コーディネーターをはじめ、保護者、地域の人、教職員などが「育てたい子ども像」を考え、思いを共有します。

■地域の持つ力を学校支援に生かしていきたい

コミュニティ・スクールの取り組みを始めてから、小・中学校と地域の結びつきが強まり、学校と地域がお互い相談しやすくなったと思います。

学校から新しい取り組みを行いたいとの提案に対しても、地域の皆さんは「いいね、やってみよう！」と意欲的な人が多いように思います。

地域も、子どもたちのために何かができることがうれしくて、まち全体の活気につながっているように感じます。

光井中学校区 河村（かわむら） 聡子（さとこ） さん

あいさつの木運動（島田小学校）
登校班で１週間気持ちのよいあいさつができたら、「あいさつの木」に花が咲きます。「たくさんの花が咲いたね」と子どもたちもうれしそうです。

石城山に伝わる紙芝居上演（塩田小学校）
郷土学習の一環として、市民団体「光紙芝居」が地域に伝わる話を紙芝居で上演しました。子どもたちも興味深々です。

保護者

コミュニティ・スクールの取り組みを通して、子どもたちにどのような変化があったのでしょうか。子どもの変化について保護者にお話をお聞きしました。

野村香子さん
光井小学校６年に通うお子さんの保護者

■地域全体で子どもを見守る安心感

子どもたちが地域の皆さんと関わるようになってから、あいさつや身だしなみなど、基本的なことがこれまでより出来るようになったと思います。

先生や私たち親以外の大人との関わりの中で、故郷のことを学びながら、人としての自信を深めているように感じています。

子どもの教育は、家庭や学校がするものというイメージがありましたが、地域の皆さんに見守っていただいているという安心感は何物にも代え難いですね。

私自身は小学校で、本の読み聞かせや算数プリント丸付けボランティアなどに参加しています。地域住民としてはもちろん、親としても普段の学校内の様子を知ることができ、学校や先生方との信頼関係も深められていると思います。

岸村晶子さん
光井中学校１年に通うお子さんの保護者

■学校は子どもたちの輝いた笑顔に会える場所

地域の人たちに大切にしてもらい、楽しい学校生活を送っているようです。

地域の人から田植えのコツを教わった子どもから「お母さん、苗はこうやって植えるんよ」と教えてもらったこともありました。成長をそばで見ていて、誇らしく思います。

また私は、中学校の光梅タイム（左記参照）などの活動に参加しています。活動の醍醐味は、参観日などでは見られない、素の子どもたちに出会えることです。皆さんも我が子や地域の子どもたちの輝いた笑顔を見に、学校行事に参加してみませんか。

▲光井中学校の光梅タイムでの様子。地域の人を講師に迎えて、紙しばいや舞踏、武道などの伝統文化を学んでいます。

子ども

コミュニティ・スクールの主役は子どもたちです。

地域のつながりを通じて、子どもたちも大きく成長しています。

山本綾さん
島田小学校６年

■あたたかいあいさつが嬉しいです

登下校のときに「おかえり」「寒いから風邪ひかんようにね」など、声をかけてもらえると、すごくあたたかい気持ちになります。

見守ってくれる地域の人と、毎日あいさつするのが私の楽しみになっています。

私も大人になったら、地域を支える人になりたいと思います。

村谷秀さん
室積中学校３年

■地域の伝統文化を守り、継承したい

早長八幡宮秋まつりでは、地域の人と協力して山車巡幸のアナウンス係を務め、子どもみこしを担いで練り歩くことで室積への愛着が深まりました。

将来は花形の山宰領として、御幣を振ってみたいです。

福島遥さん
浅江中学校３年

■地域の担い手として恩返ししたい

地域の人は、私たちが小学生の時から温かく見守ってくださる身近な存在です。

私たちが安心して学校生活を送ることができたのも、地域の皆さんのおかげと感謝しています。

また、色々な行事にも一緒に参加してくださり、名前を覚えてくれる方もいて、そんな温かいつながりのある浅江が大好きです。

これからは、今まで大切にしてもらったことを、地域行事への参加や、市内の病院で助産師になりたいという夢を叶えることで恩返ししたいです。

特派員レポート 取材を終えて

今回の取材を通して「学校は敷居が高く、関係者以外は入りづらい」ということれまでの印象が大きく変わりました。

光市では、地域の「宝」である子どもたちを地域で協力し、育んでいく仕組みが定着しつつあります。その結果、子どもたちの地域への愛着や感謝の思いが生まれ、地域貢献という姿になって、実を結んでいます。

同時に、子どもたちの笑顔がまち全体に広がることで、大人たち自身も元気になり、まちの活気につながっているように感じました。

地域のやさしさの中で育ち、巣立っていった子どもたちが、将来このふるさと光市で、再び「地域の担い手」として活躍してくれる、そんな好循環につながることを期待します。

（市民特派員　浦谷・河村・田中）